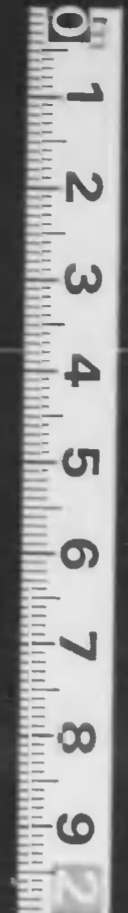


編輯部報情閣内

報週真寫

ンセ十 號日八十月五

昭和十三年五月十八日 第三千五百八十八號 (第一回大正十一年發行) 第十四號



下事變の
犬も戦士
帝都を護る



待機の一瞬
軍用犬訓練大會

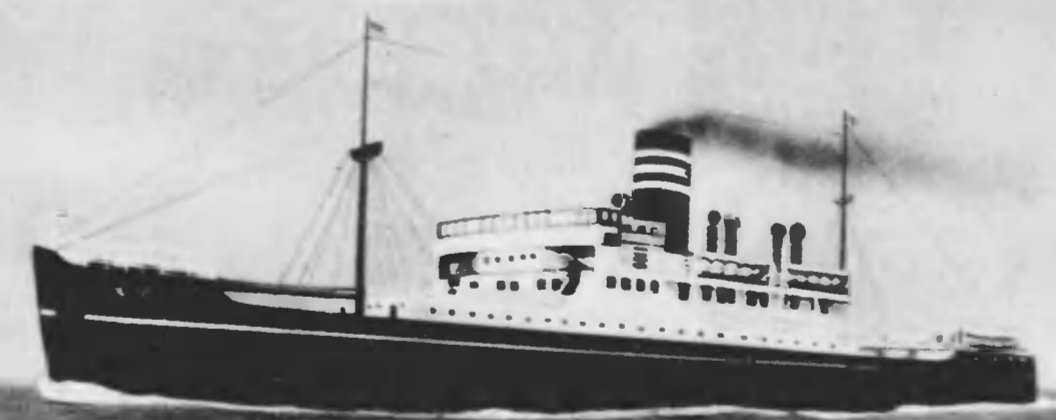


皇后陛下には、
 若葉連る五月六日
 良くも日本赤十字
 社に於ける同社第
 四十六回通常總會
 及び日比谷公園に
 於ける愛國婦人會
 第三十七回通常總
 會に行幸、事變下
 にあつて雄々しい
 活躍をつげてお
 らる兩團體に對し優
 渾なる合旨を賜は
 した。

— 日比谷
 にて撮影

明朗北支へ

南嶺 北嶺
 筑前 筑北
 丸丸 丸丸
 山山

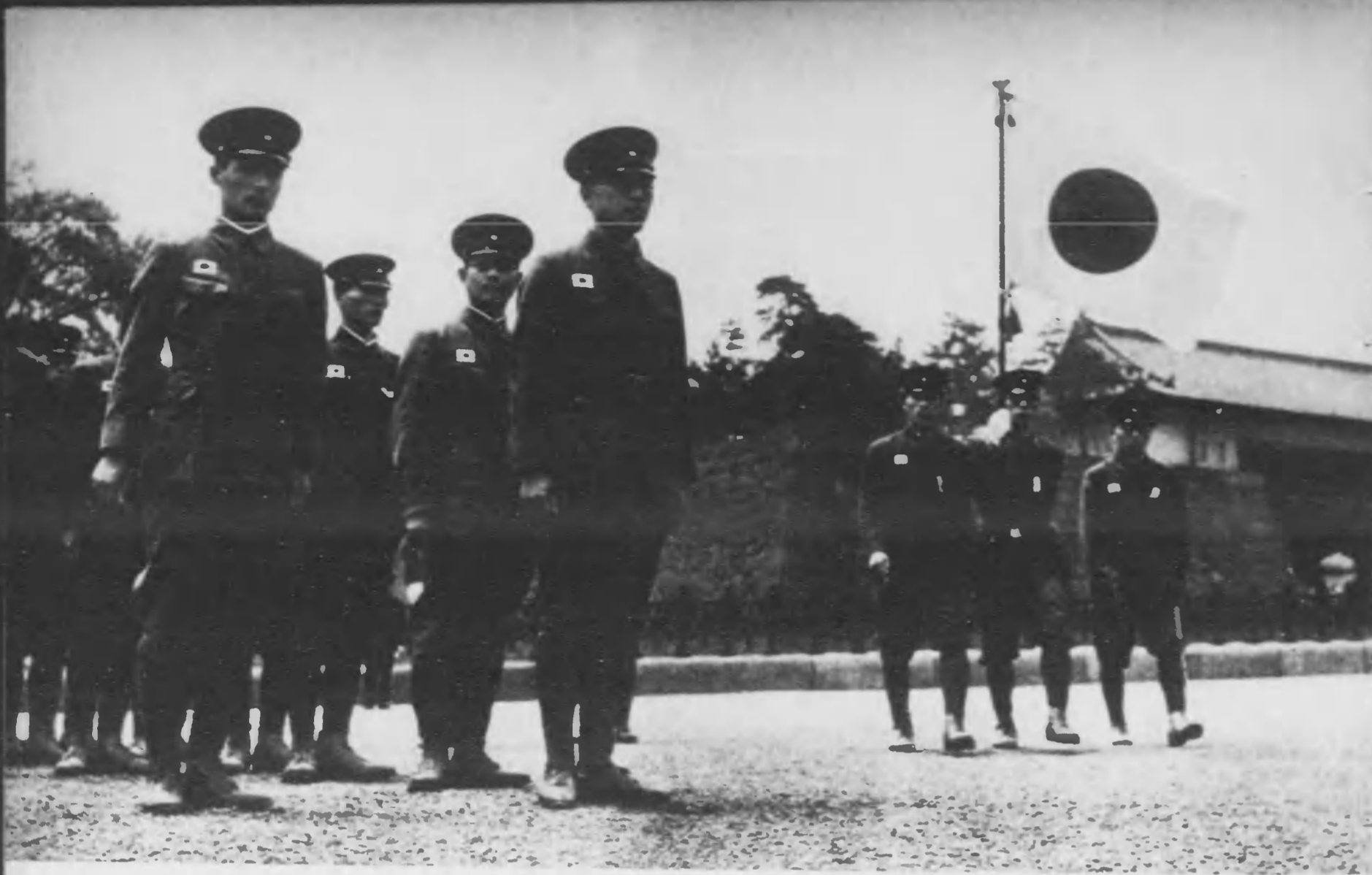


上海、青島へは
 日本郵船で

近海郵船
 東京・丸の内

船名	開出	開入	船名	開出	開入
南嶺丸	五月二日	五月七日	北嶺丸	五月九日	五月十四日
筑前丸	五月十一日	五月十六日	筑北丸	五月十八日	五月廿三日
丸丸丸	五月廿一日	五月廿六日	丸丸丸	五月廿八日	六月三日
丸丸丸	六月一日	六月六日	丸丸丸	六月八日	六月十三日
丸丸丸	六月十日	六月十五日	丸丸丸	六月十七日	六月廿二日
丸丸丸	六月廿一日	六月廿六日	丸丸丸	六月廿三日	六月廿八日
丸丸丸	六月廿五日	七月一日	丸丸丸	六月廿七日	七月二日





日本の青年の健實な精神はさつと一齊にあける拳手の體にもあらはさねば、と近衛歩兵第一聯隊で兵隊さんから敬禮を習ふ「もつと眼をひいて、眼をばつちり開いて」と、なかなか難かしい。



新しい團旗を捧げ、宮城遙拜。



友邦へ結ぶ若人

大日本青少年
獨逸派遣團

中歐の盟邦ドイツとお互には、殊に防共協定が締結されてからは、警備の度を加へ、昨年支那形勢とたび起る中、ドイツは雄健な國勢にあってよくわが國の眞意を理解し、敢然としてわが國の立場を支持しつゝある。

昭和十一年末、ドイツの青年教育の現状、國民團體の中心といふべきヒトラー・ユングトの指導本部から我々青少年を相互に親善交遊、兩國友好關係をより緊密にし度いと申し出られた。ヒトラー總統も大いに感服となり、わが政府も衷心から賛意を表し、感々この企ては實現に移されることになつた。

即ち、昨秋秋來訪のヒトラー・ユングト外務部長ラインホルト・シュルツェ氏と文部省關係者との打合せの結果、日本側代表は本月廿五日放艦を出發ドイツに向ひ、七月一日ドイツ軍三月間ドイツに滞在して交遊、

見學を行ひ十一月中旬歸國、一方ドイツ側代表も入來運びに來朝し、三月月をわが國に滞在することになつた。

これら榮えある青年たちは、全國から選拔された優秀な青少年で、今出發を前にして、擔ひのユニフォームも潔々しく五月五日歸國式を行ひ、東京青山の日本青年館に全員合宿して、嚴格な準備訓練を受けてゐる。

古い傳統が新しい誇りに變り、國民の精神と文化が、未來多しこれら歸國の青年たちを通して理解される時、兩國親善の成果は期して待つべきものかあらう。

いよいよ今日から大日本青少年獨逸派遣團員だ。頭はすべて五分刈りに、著るは新日本型仕立ておろしの國防色ユニフォーム。立派に果さん我等の使命！

大和男子に榮えある日、端午の節句に結團式は行はれた。團長授與につき、團長訓示と團員の宣誓。

全員揃つて明治神宮参拜





この警視庁特別警備隊、都警備隊の大任は、かかつて警備隊にある。未曾有の難路に臨んだ靖國神社臨時大祭には、騎警官も出動して、押寄せる各種者の波を指揮、水際立つた警備ぶりを見せた。

警備隊では、身許の判明しない愛知人の寫眞を、一定様式のカードに貼って整理、一般の人々の自由閲覧に供して、身許判明に努めてゐる。



これぞ警視庁特別警備隊。左小隊にかへた警杖を縦横に活用して、集團示威、群衆警備に出動するが、事あれば、右手の拳銃が、人民の敵滅滅の火蓋をきる。非常時の覚悟も、強く頼むに聚めて、官城前に點檢を受ける我等の治安大要隊。

けたましく鳴る非常ベル。すは突撃！と、待機室から、鐵梯を滑り降り、輸送車に飛乗る迄僅か三分。武装犯罪、兇悪なギャングも、この場に撃滅すべく、精進、出動一瞬の特別警備隊。



警視庁の「赤バイ二白バイ」は、不良運転手にはこわい走るお巡りさん。機嫌はいいが、速力違反は無いかと交通地獄の帝都を疾駆する、赤、白のオートバイは、交通網に悩む市民のよき護り手だ。

懐しの東京。然し、大都市の冷戦な巨手は、時に地方青年子女の夢を打ち砕き、苛責なく取戻の地獄へ突き落とす。かうした、家出人は差の路へと踏みこんでゆかねばならない。そのやうな人々を收容するのが警視庁の積善隊である。飯田橋の同寮には、警視庁の温い手に救はれた人達の仕事を支えながら更生の生活設計に懸命だ。



火災に、地震に、白煙りの車體も鮮やかに駆けつける警視庁救急車は、今迄幾多の尊い人命を救つてきた。権威の陸に差しのべる温い救急の手。警視庁近代施設の中に走る病院、救急車の活動は是非挙げられねばならない。

防疫戦のタンク、清道用自動車は、悪疫の流行し勝ちな夏を控へて、今年も又、我々を恐しい傳染病の猛襲から護つて呉れるだらう。





市民一人残らず防空警備を興へて置かうと、あらゆる機会を捕へて防空隊員は活動してある。トラキムの無料検診が終つたところから、坊やも母さんと一緒に瓦斯マスクをつけて見せうねと、親切に、今日はマスクの手ほどき。

警官で組織した警視廳音楽隊も、今は堂々たるバンドに成長した。クラリオネット、トロンボーンが吹き鳴らす警察隊の規律は、行進の士気を鼓舞し、時々催される演奏会は、公務に疲れた警官達に大きな慰めを興へてゐる。

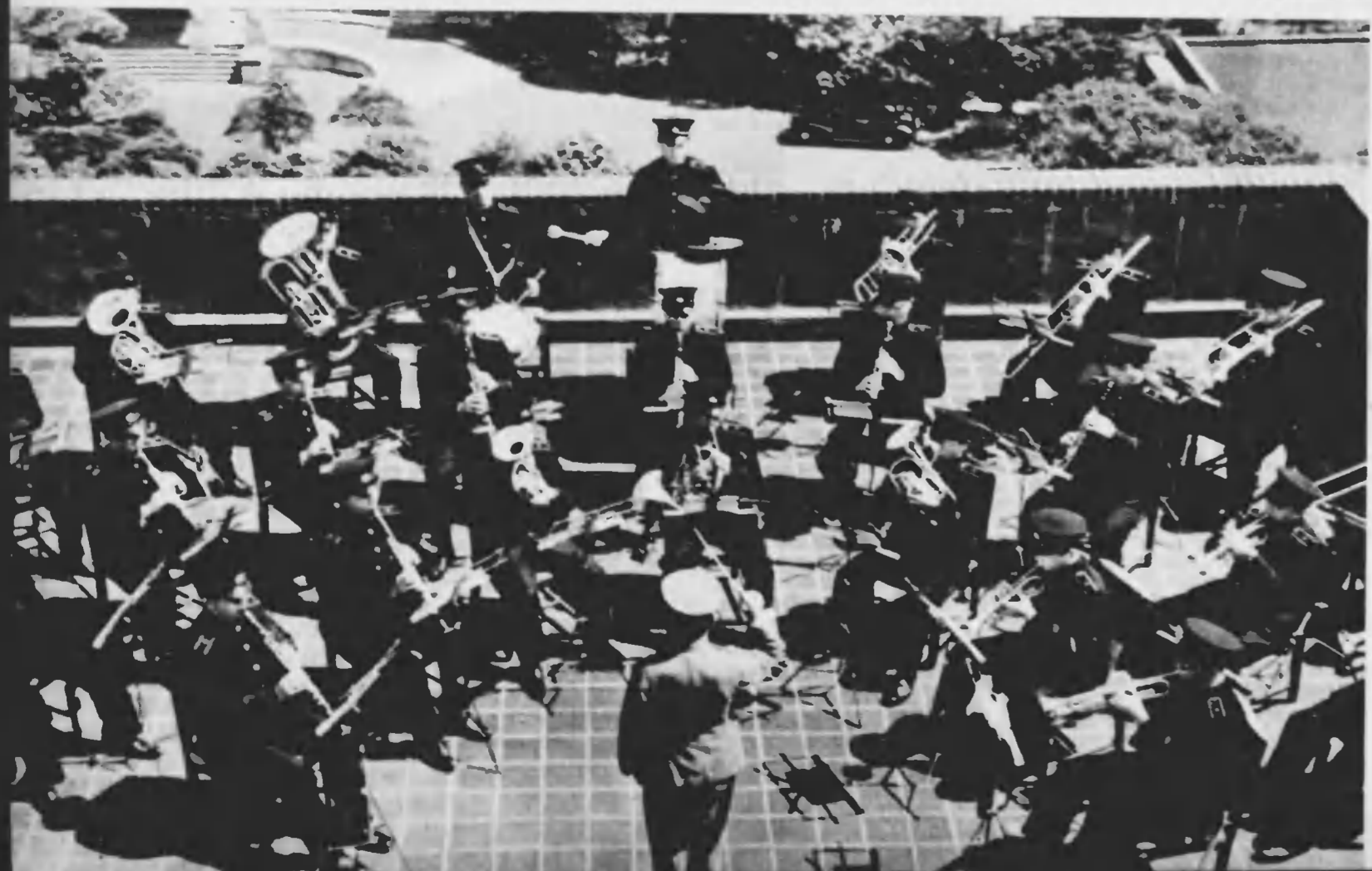
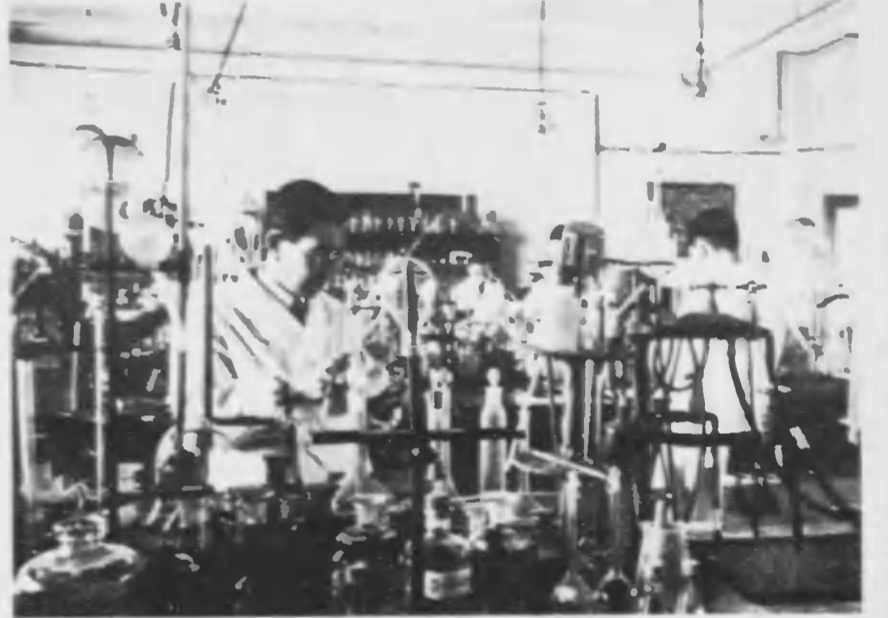


モーター車検査場だ。乗用車、トラック、オート三輪車、あらゆる車だ、此の近代建築の中を通過して、初めて、街頭に出られる。

運轉手試験所。曲りくわつた道路を踏み外したら、落第の一ストップが待つてゐる。運轉手の卵さんはハンドルにしがみつて、今日は美しい春の浮雲も徒らにバックミラーを流れる。



新聞も、雑誌も、圖書といふ圖書は文字通り檢閲機に山をなす。こゝは、印刷された一秩序安寧の場所だ。薬品、飲食物、化粧品から、下は汚水に到るまで分析する衛生検査所は、絶えず市民の保健の爲にフラスコを振り、試験管を操つてゐる。インキ業、インキ化学製品など、此處では朝飯前、その尻尾を一析出されて終ふ。



近代捜査隊に「物言はぬ警官」警備犬の活躍は大きい。森林に潜む犯人との距離は、刻々と狭まつてゆく。地上の足跡を嗅いでゐた警備犬は、彈丸のやうに駆け出した。(右) 「かれ！」の號令一下、猛然と飛びかかる警備犬に、どんな兇暴な犯人も、その敵ではなない。軍用犬訓練所で、今日も「もの言はぬ警官」は、その鋭い頭腦と、鋭い牙の武器を磨く。(左)



科學搜查陣

事件發生から
犯人逮捕まで



科學捜査隊の最新！
警視廳の指令通信機
から犯人指名手配の同
時電話が、全警署の
ルを一瞬に知らせる。

各警署の指
令通信機も
う水も漏らさ
ぬ網は強られ
た。



兇犯は、兇犯に對
しては、鐵甲防彈チヨ
フキの警官突撃隊が、
出動する。



兇犯は、兇犯に對
しては、鐵甲防彈チヨ
フキの警官突撃隊が、
出動する。



これが犯人だ。
具體的に一人の人間が
指紋され、犯罪の公證
は明らかにしつけ出され
た。

指紋は分類され、歴
史的な下りた法醫學的
理化學的專案は下され
たと、緊迫の色が流
れる。

又、鑑識課化學室で
は、證據品に、科學の全機
能を集中し、眼に見えぬ
犯罪者を、居ながらして
追ひつめてゆく。

捜査課長と共に現場
へ飛んだラヂオ自動車
からは、科學捜査隊の
第一指令が、電波とな
つて、本廳へ



ラヂオ自動車内の
通話技術は、キーに
觸れた次々と捜査
方針は、空間に閃め
いてゆく。

殺人事件突発！
警視廳からは、現
場へ向つて、捜査第
一課長、係長、鑑識
課長等が、判拾事と
共に急行した。



本廳
は、本
情に
對し
は、
ヤツ
は、
密に
對策
を
講
じた。

本廳
は、本
情に
對し
は、
ヤツ
は、
密に
對策
を
講
じた。



犬も戦士



軍用犬
競技大会

1 帝國軍用犬協會主催本年度帝國訓練隊犬競技大会は、五月八日東京市外多摩川畔で舉行された。全國三十七支部から選ばれた優秀軍用犬數十頭は實戦さながら、機銃吠え、煙幕たよ中を、川を泳ぎ、障礙をよぎ、野をつきよつて指令の技を説いた。

2 命令一了、鋭敏な鼻に指導士の足跡を嗅ぎつけて進む。

3 跳ぶ。弾丸のやうに、犬は跳ぶ。目的地は見えた。機銃が吠えやうが、煙幕がさへきらうが、ただまつしぐら。

4 任務にはたしか架つてゐた橋が今は無残に取り外されてゐる。何のこれしきの川位、さうだ、身に託された指令の任務は重たい。一時も早く！ 槍が待つてゐる。

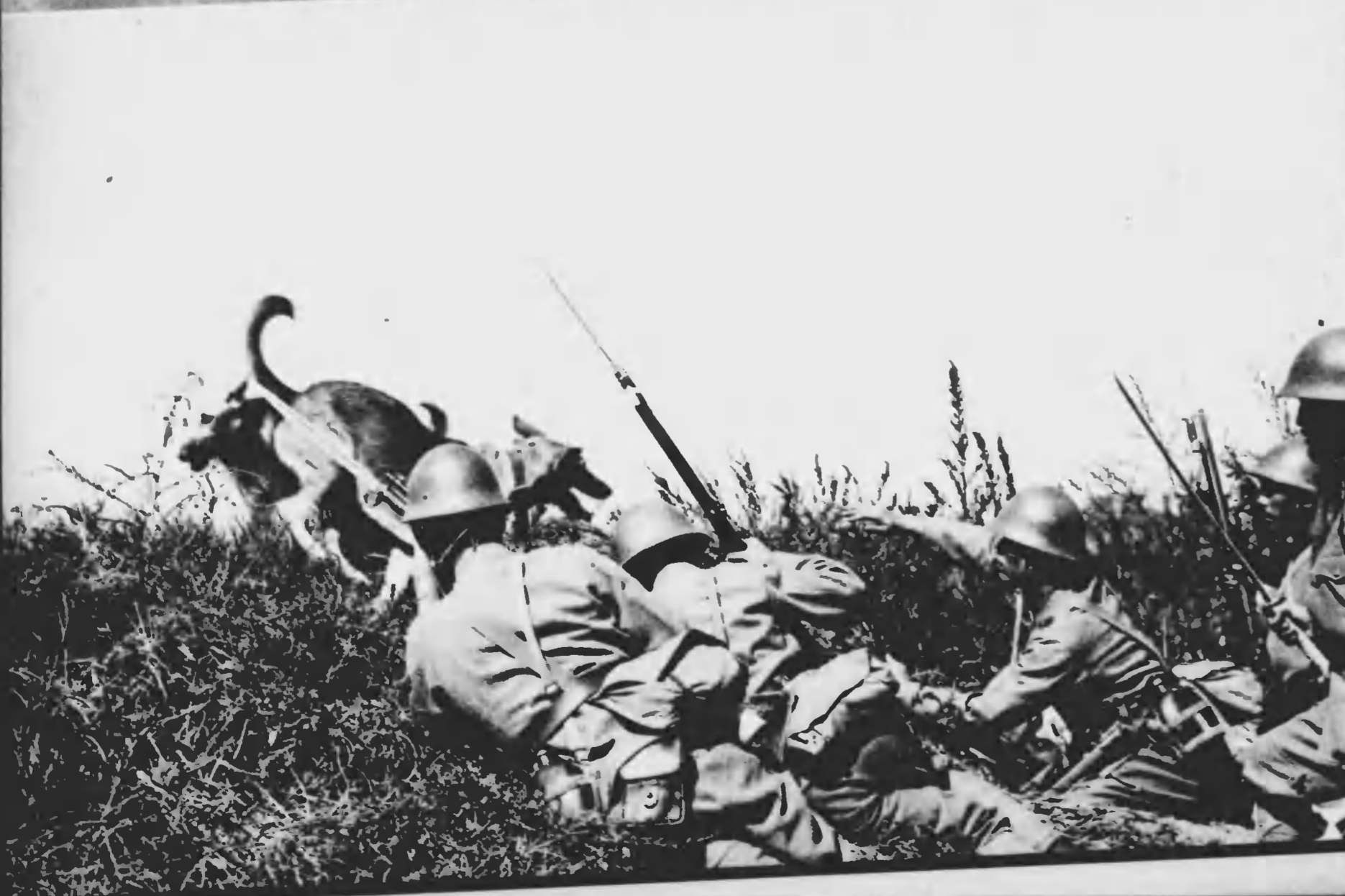
5 4あり、無事で歸つて来たか！ 部隊に思はず上る歌呼の聲、連絡がとれた後方の砲兵陣地から、つるべ打ちの集中砲火は、敵陣を片づけから撃滅してゆく。(演習場にて同僚特派員撮影)

訓練場を駆け巡る、オリータを抜き、軍用の中を駆け巡る。軍用任務をおびてまつしぐらに駆け巡る。或は深夜の陣営を突如と襲ふ物衣はな職士。軍用犬は今日大膽の戦野にわが精兵にも劣らぬ武勇を立てゝゐる。

現在わが軍用犬としてシエパード、エアデルテリア、及びドブ・ブル・ド・フランスの三種が採用され、血統正しい約三萬頭の優秀犬が軍用犬として登録されてゐる。必要時隊員軍用犬の優秀な性能を遺憾なく、軍の需要がいよいよ増大するに違ひなく、帝國軍用犬協會は

軍用犬の育成に全力を傾けてゐるが、一方その技術向上のためには、軍用犬の育成所を軍用犬としての訓練を施し、又年一回の軍用犬競技会には實戦に同じた訓練を行ひ、軍の戦場があらばいつでもこれに臨むことの出来るやうな訓練をとめてゐる。

軍用犬の育成は、一に愛犬家の愛護心に俟たねばならない。わが國の軍用犬は三百萬頭以上といはれる。少くともこの中の百餘萬頭は育成訓練に改良を加へて是非軍用犬にの愛犬家の努力があつてこそ軍用犬の育成の望は高い。



見よ！試練の日本 銃後の力 大阪府

銃後を護れと説き立つる砲臺の兵隊は、こゝでも砲臺だ。たとへば一段の野も山も荒れたまゝであつてはならぬ。前に進む玉の汗に愛國の赤心は光る。
 豊能郡止々呂美村努力奉仕團



今の戦ひは資源の戦ひだ。資源を愛護せよ！山林の手入れ、植林建設等の奉仕作業を終へた若人の一隊が合唱する愛国歌の素朴なメロディーは生ひ茂ける杉林に力強くこだまする。
 府立豊野養生
 努力奉仕團



その昔、楠公が一身以て立てこもり、大君のため奮戦した金剛の靈峰を仰げば若人の意氣もまたいやまじに上る。
 泉南郡西島城
 村藤原地森林治水
 努力奉仕團



読者の カメラ の 力作

勃漢海上の獨逸合邦投票
 満洲日新聞社
 高野 眞 郎



キンガミ献金
 東京市京橋區 増田 啓 男



合祀の日
 東京市渋谷區 菊 込 隆 一



國民精神總動員
懸賞愛國寫真募集

内務大臣杯・文部大臣杯・内閣情報部長賞授與

國策の啓蒙宣傳に内閣情報部は寫真による週報「寫真週報」を發行致しました。これを記念して舉國一致のこの秋、國民精神總動員に關する懸賞寫真を募集致します。全國カメラマン諸君はこの時局にふさはしい題材を選んで愛用のカメラを動員し寫真家は寫真によつて國策遂行に協力し「寫真週報」に寄與致しませう。

題材 國民精神總動員運動に關するもの

1. 日本精神發揚として、國旗掲揚、日本民族性の美しさ等。
2. 社會風潮の一新として、各種の公民訓練、時局柄の風俗、公徳心の涵養、公共物の保護、新しい結婚式等、射野向上運動、早起會、ラヂオ体操、各種の體育訓練等。
3. 銃後の應援、相互扶助、勞働奉仕、戰捷祈願、前線及び傷病兵士の慰問、各種産業等。
4. 國土愛護、陸海軍の姿、我等の國土の美しさ、郷土藝術の振興等。
5. 資源愛護、廢品の利用、副業の振興、空地の利用、開墾事業等。

★題材は一例を示したもので主旨に添ふものなら此の他何でもよい。

懸賞規定 (詳細は四月二日、報知新聞開朝刊参照)

賞格 制限なし
 原板 自由(國産品使用のこと)
 印畫 自由(同)
 大きさ カビネ判以上、寄附引伸自由

賞

一等 内務大臣杯 副賞金二百圓 (一名)
 文部大臣杯 副賞金二百圓 (一名)
 内閣情報部長賞 副賞金二百圓 (一名)
 二等 内務大臣杯 副賞金一百圓 (一名)
 文部大臣杯 副賞金一百圓 (一名)
 内閣情報部長賞 副賞金一百圓 (一名)
 三等 内閣情報部長賞 副賞金五十圓 (五名)
 内閣情報部長賞 副賞金五十圓 (五名)

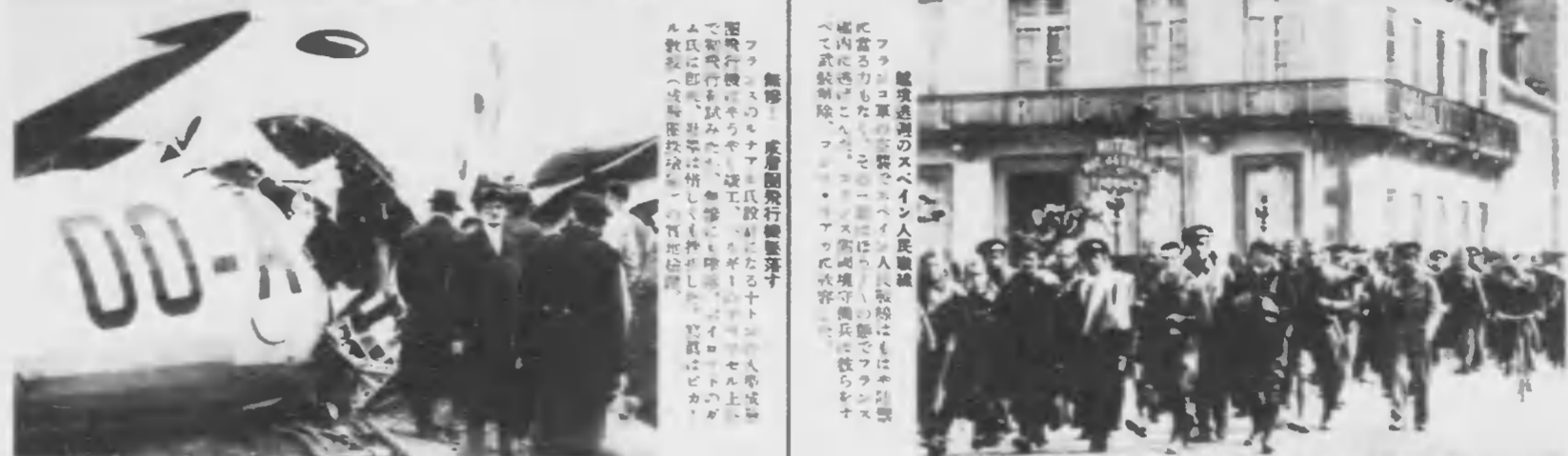
提出方法 寫紙は使用せず、印畫紙の裏面に懸賞標を貼附し各項に必要事項を記入のこと、但し懸賞標を自製するも差支へなし

▼データー以外に寫眞の説明を必ず附すこと

締切 昭和十三年六月十五日、東京丸の内報知新聞社企業部内報知寫眞部

主催 報知新聞社
 後援 内閣情報部
 協賛 富士寫真フィルム株式会社

海 彼 方



寫真募集規定

本誌は「寫真週報」の一助にもとて、出来る限り紙面を開放し諸君のカメラを動員、優秀な技術を持つてゐる。題材は内外陸海、國策の宣傳に關するものなら何でもよい。例へば何にも田舎にも、或は工場、家庭、學校など到處に瀰る戦後の奮ひ、國民精神總動員風潮、或は季節と世相の面白く組合せなどいろいろでせう。一夜の寫眞でも數枚ひと組の寫眞でもよく締切期日は決定せず、サイズはキリノ判以上、掲載の分には海潮又は紀念品を贈呈し版権は當部に歸するものとす。懸賞作品は一切返却せず。

内閣情報部

所 込 中	價 定	所 込 中
寫真週報(兼轉載)	一年(前金) 四圓八十錢	寫真週報配送部
寫真週報(兼轉載)	半年(前金) 二圓四十錢	東京市丸の内區西三丁目二番地
寫真週報(兼轉載)	三ヶ月(前金) 一圓二十錢	東京市丸の内區西三丁目二番地
寫真週報(兼轉載)	一月(前金) 三圓八十錢	東京市丸の内區西三丁目二番地
寫真週報(兼轉載)	半年(前金) 二圓四十錢	東京市丸の内區西三丁目二番地
寫真週報(兼轉載)	三ヶ月(前金) 一圓二十錢	東京市丸の内區西三丁目二番地
寫真週報(兼轉載)	一月(前金) 三圓八十錢	東京市丸の内區西三丁目二番地
寫真週報(兼轉載)	半年(前金) 二圓四十錢	東京市丸の内區西三丁目二番地
寫真週報(兼轉載)	三ヶ月(前金) 一圓二十錢	東京市丸の内區西三丁目二番地
寫真週報(兼轉載)	一月(前金) 三圓八十錢	東京市丸の内區西三丁目二番地

内閣情報部編輯部

週報

仕事の
余暇に
養ふ常識



毎水曜日發行

見本御希望の方は内閣印刷局宛御申出下さい

内閣印刷局發行
 東京市丸の内區西三丁目二番地
 電話二九〇〇

定價
 一年(前金) 四圓八十錢
 半年(前金) 二圓四十錢
 (要送料送)

寫眞週報

昭和十三年五月十八日發行 (毎週一冊水曜日出行) 第十四號

內務大臣盃・文部大臣盃・内閣情報部長盃授與

國民精神總動員

愛國懸賞寫眞募集

主催 報知新聞社
後援 内閣情報部
協賛 富士寫眞フィルム株式会社

カメラを國策の線にのせて
全カメラマン總動員の時!
傑作を一愛國懸賞へ



國唯一の純國産

富士のフィルム

ネオバンクロ・ネオクローム

(本書の大きさは規定規格A・「週報」倍率)